

コロナウイルス感染症対策に関する連絡事項（学校用）

- (1) 高校総体は全日程、無観客とする。ただし、学校関係者（管理職・教員・生徒会や新聞部など）、陸上部員、学校が認めた外部指導者、学校指定の写真業者は、入場を認める。
- (2) 大会 1 週間前から**体調管理チェックシート**（日本陸連様式）を記入し、保護者の押印をしたものを大会当日、主催者に提出する。様式は高体連 HP よりダウンロードする。
※「体調管理チェックシート」は個人情報に関わるので大会主催者が管理する。
※以下の事項に該当する場合は、自主的に参加を見合わせる。こと。（当日に書面で確認を行う）。
 - ①体調がよくない場合（例：発熱・咳・咽頭痛などの症状がある場合）。
 - ②同居家族や身近な知人に感染が疑われる方がいる場合。
 - ③過去 14 日以内に政府から入国制限、入国後の観察期間を必要とされている国、地域への渡航又は当該在住者との濃厚接触がある場合。
- (3) 10 日間の**行動記録表**を記入。（アスリートランキングよりダウンロード）
- (4) 常に 3 密回避を心がける。
- (5) 常にソーシャルディスタンス（2 m 以上の間隔）を心がける。（受付、チーム待機所、招集所トイレ等々）。スタンド席では、2 席の間隔を取り、前後の席と重ならないようにする。
- (6) 運動中（競技中、ウォーミングアップ、クールダウン）や飲食時以外は、必ずマスクを着用する。
- (7) 競技前後はもちろん常に十分な手洗い、手指消毒をする。
- (8) 大声を出しての会話や応援、集団での応援は一切禁止とする。拍手は可。
- (9) 各自ビニール袋を用意する。スタート前は、着替え等をビニール袋に入れて自己管理する。
- (10) マスクも含め、全てのごみは各自責任をもって自宅に持ち帰る。
- (11) 腰ナンバーは各自で取り外し、各自責任をもって自宅に持ち帰る。
- (12) ウォーミングアップは集団で行わず、必ず個人で行う。また、不必要な会話は避ける。
- (13) 飲食の際は、必ず 2 m 以上の間隔を明け、同じ方向を向いて摂取する。
- (14) 熱中症予防のためにこまめに水分を補給する。水分補給の際は、人との距離を 2 m 以上あけて行う。水分の回し飲みはしない。
- (15) 競技者に付き添う場合、ソーシャルディスタンスを確保し、会話に注意する。
- (16) 大会終了後 2 週間の「体調管理チェック表」を記入し、個人で保管する。
- (17) スパイクは全天候用 9 mm 以下のものを使用すること。但し、走高跳・やり投について 12 mm 以下とする。800 m 以上のトラック種目（競歩を除く）の使用する靴底の厚さの上限については、25 mm 以下とする。（W A 規則第 143 条 TR5. 13. 3） ※別表参照**

【提出書類（5 月 16 日）】

- ☐ 体調管理チェックシート（保護者押印あり）
- ☐ J A A F 選手登録一覧表
- ☐ オープン競技参加者一覧表

【顧問が集めて保管するもの】

- ☐ 行動記録表

【提出書類（5 月 29 日）】

- ☐ 体調管理チェックシート（保護者押印あり）

【顧問が集めて保管するもの】

- ☐ 行動記録表

別表

【TR5.13.3 表】

種 目	ソールの 最大の厚さ	補足
フィールド種目 (三段跳除く)	2 0 mm	全投てき種目と高さを競う跳躍種目および三段跳を除く長さを競う跳躍種目に適用。 全フィールド種目で、靴の前の部分の中心点の靴底の厚さは、踵の中心点の靴底の厚さを超えてはならない。
三段跳	2 5 mm	靴の前の部分の中心点の靴底の厚さは、踵の中心点の靴底の厚さを超えてはならない。
トラック種目 (ハードル種目を含み、 800m未満の種目)	2 0 mm	リレーにおいては、各走者が走る距離に応じて適用する。
トラック種目 (障害物競走を含み、 800m以上の種目)	2 5 mm	リレーにおいては、各走者が走る距離に応じて適用する。 競技場内で行う競歩競技の靴底の最大の厚さは、道路競技と同じとする。
クロスカントリー	2 5 mm	
道路競技 (競走、競歩)	4 0 mm	
マウンテンとトレイル レース (TR57)	規定なし	